

男女共同参画の視点による平成28年熊本地震対応状況調査

＜民間支援団体向け調査票＞

■男女共同参画の視点からの防災とは

男女共同参画の視点からの防災とは、地域の防災力の向上のため、様々な災害時の教訓を活かし、男女で異なる災害から受ける影響に配慮することや、性別のみにとらわれず、防災・復興の主体的な担い手として女性が位置づけられ、活躍することなどを通じて、地域における生活者などの多様な視点から、予防(平時)、応急、復旧・復興の各場面において、防災対策を考え、実行していくことです。

(考え方)

男女が、互いにその人権や性別を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、共にその個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は、全ての個人がより暮らしやすくなるものであり、我が国社会にとっての最重要課題です。

一方、災害は、地震、津波、風水害等の自然現象(自然要因)とそれを受け止める側の社会の在り方(社会要因)により、その被害の大きさが決まってくると考えられており、災害時には平時における社会の課題が一層顕著になって現れます。

その際、性別、年齢や障害の有無等、様々な社会的立場によって災害から受ける影響は異なることから、これらの視点を通して、社会要因による災害時の困難を最小限にする取組が重要となります。

例えば、これまでの災害の経験から、災害時においては、

- ①男性、女性という性別を理由として役割を固定的に分ける意識(固定的性別役割分担意識)から、家事や子育て、介護等の増大する家庭的責任が女性に集中しストレスや心身の不調を抱えやすい一方、家族を経済的に支え、守るのは自分の役割であるとの意識が強い男性が、その責任を抱え込み追い詰められやすいこと
- ②男女のニーズの違いや子育て家庭、介護を必要とする家庭の事情などが十分配慮されず、必要な支援や物資が提供されないこと
- ③意思決定の場への女性の参画割合が低く、予防(平時)、応急、復旧・復興の各場面において女性の意見が反映されにくいこと
- ④女性や子どもに対する暴力が、災害時には避難所や仮設住宅等で顕在化する懸念
- ⑤女性はパート・アルバイト等の非正規雇用が多いため、災害時に解雇・雇止めされるおそれがあること

などの問題が明らかになっていますが、これらは全て平時の男女共同参画の課題が災害時に表出したものです。

このような災害時の課題を解決、もしくは未然に防ぐために、男女で異なる災害から受ける影響に配慮することや、防災・復興の主体的な担い手として女性を位置づけることなどを通じて、地域における生活者などの多様な視点から、防災対策を考え、実施し、地域の防災力を高めていくことが、男女共同参画の視点からの防災です。

■本調査の目的

本年4月に発生した平成28年熊本地震(以下、「熊本地震」という。)は、その前震と本震により最大震度7を観測し、その後も繰り返し続く大きな余震により、熊本県を中心に甚大な被害をもたらしましたが、発災直後から避難所をはじめ、被災者支援において男女共同参画の視点から課題が発生していたとの報告もあります。

政府では、第4次男女共同参画基本計画(平成27年12月25日閣議決定)及び防災基本計画(平成28年2月16日中央防災会議決定)においては、予防(平時)、応急、復旧・復興等のあらゆる局面において、男女のニーズの違いに配慮するとともに、防災・復興に係る意思決定の場への女性の参画を推進するよう求めています。

また、内閣府では、平成25年に、東日本大震災等、過去の災害対応における経験を基に、男女共同参画の視点から必要な対策・対応について、地方公共団体が取り組む際の指針となる基本的な事項を「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」として取りまとめ、地方公共団体、関係機関・団体等と共有しています。

これらを踏まえ、熊本地震において災害対応に当たった団体の、事前の備えや発災時の対応、これまでの復旧・復興の対応状況の把握や各種事例の集積を男女共同参画の視点から実施するとともに、男女共同参画の視点から、今後解決すべき課題等を明らかにすることを目的とした調査を実施します。

■0. 回答者について

貴団体、回答者及び本件についての連絡先(ご所属・ご連絡先)をご記入ください

団体種別 (該当する番号1つを選択)	1. NPO	5. 医療法人	9. その他の法人	
	2. 社会福祉法人	6. 学校法人	10. 個人	
	3. 公益社団・公益財団法人	7. 宗教法人		
	4. 一般社団・一般財団法人	8. 営利法人		
貴団体名				
ご所属		ご担当者名		
電話番号		メールアドレス		

■ I. 普段の活動状況について

(1) 貴団体の体制

問1 貴団体の職員やボランティア等の体制について (※平成28年12月1日時点)				
職員数【常勤】		人 (男性		人) 女性
職員数【非常勤】(実人数)		人 (男性		人) 女性
ボランティア等の人数		人 (男性		人) 女性

(2) 普段の活動内容について

問2 貴団体が普段行っている活動の状況について (該当するものすべてに○)	
1. 女性や子どものエンパワーメントなどの男女共同参画に関する活動	
2. 社会福祉	
3. 障がい者を対象とした活動	
4. 介護予防や介護サービスに関係した活動	
5. 健康や医療サービスに関係した活動	
6. 教育活動	
7. 宗教活動	
8. 自然や環境を守るための活動	
9. 国際交流・国際協力に関する活動	
10. 多文化共生に関する活動	
11. 安全な生活のための活動	
12. 防災・被災者支援に関係した活動	
13. まちづくりのための活動	
14. スポーツ・文化・芸術に関係した活動	
15. 乳幼児・児童・青少年等の健全育成を対象とした活動	
16. NPO等の中間支援組織	
17. その他	

問3 防災・復興に際して男女共同参画の視点が重要とされていますが、こうした視点について、貴団体の事業全体の実質的な責任者(代表もしくは専務理事、事務局長)は認識していますか。また、実際の災害対応に当たって実践していますか

男女共同参画の視点からの防災・復興についての認識の有無 (該当する番号1つを選択)

1. 有

2. 無

《男女共同参画の視点からの防災・復興についての認識が「1. 有」を選択した場合に回答》

どのようにして認識したか (該当するものすべてに○)

1. 東日本大震災や新潟中越地震等の経験の際に知った
2. 東日本大震災や新潟中越地震等の後に研修やシンポジウム等 各種の情報に接して知った。
3. 熊本県の災害ボランティア団体のネットワークの中で知った
4. 熊本地震の被災地に支援に行つて知った(3.を除く)
5. 内閣府のホームページで知った(下記(参考)参照)
6. 報道やインターネット等で知った
7. スフィア・プロジェクト等、国際的な人道支援の基準を通して知った
8. その他 ↓具体的に記入してください。

(参考) 内閣府男女共同参画局では、平成25年に過去の災害対応における経験を基に、男女共同参画の視点から、必要な対策・対応について、予防(平時)、応急、復旧・復興等の各段階において地方公共団体が取り組む際の指針となる「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」やこれに基づくチェックリストを作成・公表しています。

男女共同参画の視点を踏まえた防災・復興の実践の有無 (該当する番号1つを選択)

1. 有

2. 無

実践している団体はどのような取組を行っているかをこちらに記入してください

■ II. 発災後の対応

(1) 職員やボランティア等の派遣

問4 貴団体が被災地に派遣した職員やボランティア等の状況について			
派遣した職員の延べ人数 (複数回派遣した職員は1人で換算)	人	(男性	人 女性
派遣したボランティア等の延べ人数	人	(男性	人 女性
<p>《上記で回答いただいた職員やボランティアの男女比に関してお訪ねします。人道支援の国際基準では、支援者の男女比もバランスを取ることが理想とされていますが、貴団体の職員・ボランティアの男女比は、どのような経緯でもたらされたものなのかについて、あてはまると思うものすべてに○をお願いします》</p>			
<p>派遣した職員について (該当するものすべてに○)</p>			
1. 防災や災害対応の経験がある女性職員がいない・少なかった			
2. 男性職員を中心に派遣するのが団体としての方針であった			
3. 被災地から男性職員の派遣要請があった			
4. 派遣職員は原則自主的に手を挙げた人の中から選定していたが、手を挙げる女性職員がいない・少なかった			
5. 育児や介護等を担っている職員が男性と比較して多く、女性職員を派遣できなかった			
6. 女性職員の派遣に際して、必要な資機材、環境整備を行うことが難しかった			
7. 災害担当者の中に女性職員がいた			
8. 被災地から女性職員の派遣要請があった			
9. 被災地の状況から女性職員を派遣する必要性があった			
10. 平時から、男女問わず被災現場に派遣できるよう研修している			
11. 男女両方の視点から支援が可能となるよう、あえて男女両方の職員を現地に派遣するようにした			
12. 災害担当者ではないが、過去の災害で現場経験のある女性職員を(も)派遣した			
13. 職員の都合により、たまたま女性職員を(も)派遣した			
14. 派遣職員を公募した結果、女性を採用し現地に派遣した			
15. 派遣先に求められている要件に合う職員が女性だった			
16. 育児・介護などの家庭の事情を考慮し、派遣期間を短くしている			
17. 派遣職員の男女比は、職員の男女比とほぼ同じである			
18. 女性職員の派遣に際して、必要な資機材、環境整備を行っていた			
<p>(↓具体的に記入してください。例: 宿泊場所・防犯・相談体制の整備など)</p>			
<div style="border: 1px solid black; height: 50px;"></div>			
19. その他	<p>(↓具体的に記入してください。)</p>		
<div style="border: 1px solid black; height: 50px;"></div>			

派遣したボランティアについて（該当するものすべてに○）

1. 性別にこだわらずボランティアを公募した
2. 派遣先に求められている要件に合うボランティアに男性が多かった
3. 被災地の状況から、男性ボランティアの派遣の必要性があった
4. 女性ボランティアの派遣に際して、必要な資機材、環境整備を行うことが難しかった
5. 性別を意識してボランティアを公募した。
6. 派遣先に求められている要件に合うボランティアに女性が多かった
7. 被災地の状況から、女性ボランティアの派遣の必要性があった
8. 男女両方のボランティアがバランスよく派遣されるよう努力した
9. 現地では、意識して男女両方のボランティアリーダーを立てた
10. 女性ボランティアの派遣に際して、必要な資機材、環境整備を行っていた

（↓具体的に記入してください。例：宿泊場所・防犯・相談体制の整備など）

11. その他（↓具体的に記入してください。）

--

問5 被災地に職員やボランティア等を派遣した際の、災害派遣に関する説明会の実施や派遣者用のマニュアル等の作成状況について

① 災害派遣に関する説明会の実施（該当する番号1つを選択）	1. 有	2. 無	
② 派遣者用のマニュアル等の作成（該当する番号1つを選択）	1. 有	2. 無	

《①災害派遣に関する説明会の実施②派遣者用のマニュアル等の作成いずれかで「1. 有」を選択した場合に回答》

③ 災害派遣に関する説明会や派遣者用のマニュアルの内容に、男女共同参画の視点を踏まえた事項が含まれていた（該当する番号1つを選択）	1. 有	2. 無	
---	------	------	--

《③で「1. 有」を選択した場合に回答》

男女共同参画の視点を踏まえた事項を反映させるための工夫等の内容を記入してください

■ Ⅲ. 避難所等での支援について

(1) 支援活動を行った市町村

問6 貴団体の職員を派遣した市町村はどこですか (該当するものすべてに○)					
(熊本県)			10. 美里町		20. 南阿蘇村
1. 熊本市			11. 玉東町		21. 西原村
2. 八代市			12. 和水町		22. 御船町
3. 玉名市			13. 南関町		23. 嘉島町
4. 山鹿市			14. 大津町		24. 益城町
5. 菊池市			15. 菊陽町		25. 甲佐町
6. 宇土市			16. 南小国町		26. 氷川町
7. 宇城市			17. 小国町		27. その他
8. 阿蘇市			18. 産山村		
9. 合志市			19. 高森町		
(大分県)			3. 日田市		6. 由布市
1. 大分市			4. 竹田市		7. その他
2. 別府市			5. 宇佐市		

《避難所の直接支援を行った団体は問7へ、行っていない団体は問10へ進んで下さい》

問7 避難所の支援を行った団体にお聞きします。貴団体の職員やボランティア等が支援を行った避難所について、その数をご記入ください(把握している分だけで結構です)。また、貴団体の職員やボランティア等が支援を行った避難所の種類についてご記入ください		
貴団体の職員やボランティア等が支援を行った避難所の数		箇所
貴団体の職員やボランティア等が支援を行った避難所の種類 (該当するものすべてに○)	一般(一般住民対象)	
	母子を対象(母子、妊産婦、新生児、乳幼児対象)、女性専用	
	その他(福祉避難所等)	

※可能であれば派遣避難所名の分かる資料を添付してください。

問8 貴団体が支援を行った避難所について、育児、介護、女性等の多様なニーズをどのように把握していましたか (該当するものすべてに○)	
1. 避難所の担当職員や避難所の運営体制に女性を配置した	
2. 保育士、介護士、看護師など専門職員を配置した	
3. 担当を決め、ニーズの聞き取りを行った	
4. ニーズ調査を行う際に、同性が調査を行うように配慮した	
5. ノウハウを有する派遣職員を担当とするようにした	
6. その他 ↓具体的な内容を記入してください	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 50px; margin: 5px 0;"></div>	
7. 特に行っていない	

問9 貴団体が支援を行った避難所について、男女共同参画の視点を反映させるために行った取組や工夫があれば、具体的にご記入ください。また、男女共同参画の視点から課題が発生したことがあれば、以下に把握している範囲で結構ですので、その避難所の対象・特徴や課題等を記入してください。
※いずれも、複数の避難所支援を行っていた場合には、どこの避難所であるかも記載してください。

男女共同参画の視点を反映させるために行った取組や工夫

男女共同参画の視点からの課題

問10 避難所以外の支援で、育児・介護・女性・男性等の多様なニーズへの配慮を行った事例があれば具体的に記述してください。

■ IV. その他

問11 男女共同参画の視点を踏まえた支援等の取組を実施するにあたり、貴団体職員・ボランティアと被災自治体職員及び災害派遣職員との連携状況について(該当するものすべてに○)

1. 被災自治体職員と概ね円滑に情報共有ができた	
2. 被災自治体職員との情報共有に難しい面があった	
3. 民間支援団体と概ね円滑に情報共有ができた	
4. 民間支援団体との情報共有に難しい面があった	
5. 被災自治体職員と概ね円滑に役割分担ができた	
6. 被災自治体職員との役割分担に難しい面があった	
7. 民間支援団体と概ね円滑に役割分担ができた	
8. 民間支援団体との役割分担に難しい面があった	
9. 被災自治体職員及び民間支援団体へ概ね円滑に適切な指示ができた	
10. 被災自治体職員及び民間支援団体へ適切な指示を出すのに難しい面があった	
11. その他 ↓具体的な内容を記入してください	
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	
12. 特にない	

**問12 被災自治体職員又は災害派遣職員との連携に関する上記回答の背景、要因について、お気づきの点、考えられている点があれば下記にご記入ください
(例: 支援体制が整っていた/いなかった。被災自治体職員の経験、研修等が十分であった/なかった。等)**

問13 貴団体における支援物資の提供の状況について

品目	被災地での支援物資としての提供の有無 (該当する番号1つを選択)		
	1. 有	2. 無	
簡易間仕切り	1. 有	2. 無	
段ボールベッド	1. 有	2. 無	
更衣室用ダンボール	1. 有	2. 無	
簡易トイレ	1. 有	2. 無	
防犯ブザー等	1. 有	2. 無	
下着(男性用)	1. 有	2. 無	
下着(女性用)	1. 有	2. 無	
ハンドクリーム	1. 有	2. 無	
リップクリーム	1. 有	2. 無	
化粧品	1. 有	2. 無	
生理用品	1. 有	2. 無	
サニタリーショーツ	1. 有	2. 無	
清掃綿	1. 有	2. 無	
おりものライナー	1. 有	2. 無	
中身の見えないゴミ袋	1. 有	2. 無	
尿漏れパッド	1. 有	2. 無	
粉ミルク	1. 有	2. 無	
アレルギー用ミルク	1. 有	2. 無	
乳幼児用飲料水	1. 有	2. 無	
哺乳瓶	1. 有	2. 無	
哺乳瓶用消毒機材	1. 有	2. 無	
湯沸かし器具(乾電池式または発電式)	1. 有	2. 無	
小児用紙おむつ	1. 有	2. 無	
おしりふき	1. 有	2. 無	
乳児用着替え	1. 有	2. 無	
ベビーバス	1. 有	2. 無	
離乳食	1. 有	2. 無	
アレルギー対応の離乳食	1. 有	2. 無	
スプーン	1. 有	2. 無	
抱っこ紐	1. 有	2. 無	
授乳用ポンチョ	1. 有	2. 無	
成人用おむつ	1. 有	2. 無	
介護食	1. 有	2. 無	
その他 ()	1. 有	2. 無	
その他 ()	1. 有	2. 無	
その他 ()	1. 有	2. 無	

問14 男女共同参画の視点から支援物資や備蓄物資の中で、使い勝手がよかった／悪かったものなどありましたか。
(例： サイズ設定の細かいブラジャーよりも、カップ付インナーの方が、汎用性が高く、物資の管理や配布もしやすかった。
基礎疾患等により食事制限のある方が食べられる食品が少なかった)